令和８年度１１月号　江戸川区立春江中学校　学校だより　　令和８年１１月２日発行

久遠

【は】っけん・気付く　【ル】ートを考えつながる　【え】がおを創り出す



春江中学校教育目標

○　自ら進んでよく学び、協力して働く生徒
○　規律を守り、責任を重んずる生徒
○　心身ともに健康で、思いやりのある生徒

自分の当たり前は、みんなの当たり前ではない　１１月２日朝礼　校長講話より一部抜粋

校長　　友田　和

１１月を迎え、朝夕の空気にも秋の深まりを感じる頃となりました。先週、２年生は３日間の職場体験に取り組み、地域の事業所や店舗などで実際に働く経験をしました。普段は利用する側にいる生徒たちが、働く人の立場に立つことで、仕事を支える工夫や責任、相手への気配りなど、これまで気付かなかったことを学んだのではないでしょうか。大切なのは、その経験をそこで終わらせず、これからの生活に生かしていくことです。相手の立場を考えて行動すること、自分の役割に責任をもつこと、周囲の人と協力すること。社会で求められるこうした力は、日々の学校生活の中でも育てていくことができます。

また、３年生は三者面談を行い、進路について本格的に考える時期を迎えています。将来の目標や得意なこと、大切にしたいことは一人一人異なります。周りと比較するのではなく、自分自身と向き合い、納得のいく進路を選んでほしいと願っています。

こうした機会に改めて考えたいのが、「自分の当たり前は、みんなの当たり前ではない」ということです。自分と相手では、見えている景色も、感じ方も違うかもしれません。職場体験で働く人の立場を知ることも、進路に向き合う仲間の考えを尊重することも、その違いに気付くところから始まります。

先月、本校では道徳授業地区公開講座において、北朝鮮による拉致被害者の曽我ひとみさんをお招きしてお話を伺いました。曽我さんの経験や思いに耳を傾けることで、命や家族の大切さ、人として尊重されることの大切さ、かけがえのない日常について、改めて考える貴重な機会となりました。人権というと、少し難しく感じるかもしれません。しかし、相手の思いや立場を想像し、一人一人を大切にすることは、身近な人間関係の中でこそ問われています。

１１月は「ふれあい月間（いじめ防止強化月間）」です。６月にも生徒に伝えましたが、この機会に改めて、日頃の言葉や行動を振り返ってほしいと思います。何気なく口にした一言が、相手を深く傷つけることがあります。「冗談のつもりだった」「そんなつもりはなかった」としても、それだけで相手の傷ついた気持ちが消えるわけではありません。自分は平気でも、相手はそうではないかもしれない。その想像力をもつことが、互いを尊重する第一歩です。

いじめは、決して許されるものではありません。自分が嫌な思いをしているときや、困っている人がいることに気づいた時には、一人で抱え込まず、先生や周りの信頼できる大人にすぐに相談してください。学校としても、生徒の小さな変化を見逃さず、一人一人の声に耳を傾け、安心して相談できる環境づくりに努めてまいります。

本校が目指す「元気な学校」とは、単に賑やかで活気がある学校ではありません。一人一人が大切にされ、自分らしく安心して過ごせる学校であることが、その土台にあります。「自分の当たり前は、みんなの当たり前ではない」。この言葉を、生徒たちとともに日常の行動につなげ、互いの違いを認め合える学校をつくっていきたいと考えています。